

「希望する生活」のために

メープル
管理者 佐久間 直人

この度、メープルの管理者を拝命しました、佐久間 直人です。昨年度は福島区にあり、グループホーム・ビーンズの管理者として勤務しておりました。

ビーンズでもそうでしたが、1年365日、利用者の皆さんの生活を支え、さらに生活の質を高めていく事は非常に大変なことだと思っております。しかし、障がいのある方の地域で自分の希望される生活を支えることは、とてもやりがいがある仕事だとも思っております。「今の生活では満足できない」、「1人暮らしがしたい」、「今の暮らしがいい」皆さん様々な感想を述べられます。現状に不満があっても無くてもそう思えることが、生活をしていることだと思います。

メープルのグループホームは地域のマンションや一戸建てを借りているところがほとんどで、老朽化や消防設備、グループホームの点在など課題も多くあります。メープルでは、8か所のグループホームに40名の利用者が住まわれています。利用者が希望する生活のスタイルは様々ですが、できるだけ個々人の気持ちに寄り添い、その選択を重視してまいりました。しかし、利用する年数が長くなることもあって職場などの環境変化や身体的な変調、精神面での不調などが起こってきています。今後、利用者に地域での生活を続けていっていただくにはより多くの、質の高い支援が必要になってきます。そのためにも、個別支援計画をより充実させたものにしていくとともに、関係機関との連携を強め、利用者の言葉だけでは伝えきれない『声なきこえ』に耳を澄まし希望や不安をくみ取り、独り立ちも視野に入れた希望する生活の実現に努めていきたいと思っております。

また、利用者が希望する生活の実現するにはどのようにしていく事が良いのかを、わかりやすく伝え、無理のない形で計画を実現していくように理解していただけるよう、努力していきたいと思っております。

心豊かに過ごせるよう

福島育成園
管理者 長谷 弥朋

少し早めに咲き出した桜の花が、気が付けば緑の葉が茂り、時間の流れの速さに驚いております。

平成30年度も引き続き福島育成園の管理者を拝命いたしました長谷です、よろしくお願いたします。福島育成園に異動してから4年の月日が流れている事にも驚いております。

昨年度は、福島育成園を利用されている方が安全に安心して暮らしていくことが出来るよう利用者一人ひとりの身体や気持ちの状態をそれぞれ把握し、一人ひとりに合わせた支援のあり方を検討し支援員一同で支援を努めてまいりました。お一人での歩行に不安を覚える方や視力の低下が急速に進行してこられた方など、高齢に伴う身体機能や生活能力の変化に支援が多く必要になってこられた利用者が顕著に見られるようになり、利用者一人ひとりの将来に想定される状況に対し、ご家族と協力をしながら準備を進めてまいりました。今年度も引き続き、利用者一人ひとりの状態を確認させていただきながら支援を行ってまいります。

現在、福島育成園の日中活動の定員は100名ですが、作業室や活動スペースの広さなどから、もう少しゆったりとした環境で快適に過ごしていただきたいため、定員を80名にする準備を進めていきます。また、相談支援事業は、大阪市から委託を受けていた福島区障がい者相談支援センターから、福島区障がい者基幹相談支援センターとして位置付けられました。地域で生活しておられる障がいのある方々の支援拠点を整備する上での中心的な役割を担うことや、様々な課題への対応が求められてきますので、これまで以上に福島区域の障がい者福祉に主体的に関わるよう努めてまいります。また相談支援事業の取り組みの一つとして、福島区域におられる障がい児・者と地域にお住まいの方々との交流や福祉に関する相談を受ける場所として福島育成園の食堂を利用したコミュニティサロンを開催いたします。

今後も福島育成園のスタッフ全員が、法人の理念にあります“障がいのある人が、安心して心豊かにすご

